

安全データシート



according to JIS Z 7523:2012

Repair Stick Aqua

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	: Repair Stick Aqua
製品コード	: 105310
供給者の会社名称	: WEICON GmbH & Co. KG Königsberger Str. 255 48157 Münster Germany Phone: +49 251 93220 Fax: +49(0)251 / 9322 - 244 Internet: www.weicon.de
本SDS担当者の電子メールアドレス	: msds@weicon.de
緊急電話番号:	: TRANSPORT / EMERGENCY CONTACT (24h): Tel: +44 1865 407333 (English) Osaka Poison Information Center: 072-727-2499 (24 hours)

推奨用途及び使用上制限

エポキシ樹脂

2. 危険有害性の要約

GHS 分類	: 皮膚刺激性 - 区分2 眼刺激性 - 区分2A 皮膚感作性 - 区分1 水生環境有害性(長期間) - 区分3
--------	---

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語	: 警告
危険有害性情報	: H315 - 皮膚刺激。 H317 - アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。 H319 - 強い眼刺激 H412 - 長期継続的影響によって水生生物に有害。

注意書き

概要

安全対策

応急措置

保管

廃棄

:	
:	P280 - 保護手袋を着用すること。保護眼鏡または保護面を着用すること。 P273 - 環境への放出を避けること。 P261 - 粉塵の吸入を避けること。 P264 - 取扱い後はよく洗うこと。
:	P362 + P364 - 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。 P302 + P352 - 皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。 P333 + P313 - 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合: 医師の診察または手当を受けること。 P305 + P351 + P338 - 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 P337 + P313 - 眼の刺激が続く場合: 医師の診察または手当を受けること。
:	該当しない
:	P501 - 内容物および容器を現地、地域、国および国際的規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分 : 混合物

化学名又は一般名	%	CAS 番号	官報公示整理番号	
			化審法	安衛法
Poly[oxy(methyl-1,2-ethanediyl)], α -hydro- ω -hydroxy-, ether with 2,2-bis(hydroxymethyl)-1,3-propanediol (4:1), 2-hydroxy-3-mercaptopropyl ether	≥25 - ≤50	72244-98-5	C015-946-38A	データなし
reaction product: bisphenol-A-(epichlorhydrin); epoxy resin (number average molecular weight ≤ 700)	≤10	25068-38-6	7-1283	データなし
二酸化チタン	≤10	13463-67-7	1-558; 5-5225	2-(3)-509
3,6-diazaoctanethylenediamin	0.75	112-24-3	2-163; 7-5	データなし
phenol	0.45	108-95-2	3-481	10-3046

4. 応急措置

- 吸入した場合** : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。呼吸していない場合、呼吸が不規則な場合、あるいは呼吸停止が起きた場合には、適切な訓練を受けた者が人工呼吸あるいは酸素吸入を行う。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。健康上有害な影響が持続または重篤な場合には医師の診断を受ける。意識がない場合、昏睡位(うつ伏せで顔をやや横向き)にして直ちに医師の診断を受けさせる。気道を開いた状態に維持する。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。
- 皮膚に付着した場合** : 多量の水と石鹸で洗うこと。汚染された衣服および靴を脱がせる。汚染された衣服を取り除く前に汚染された衣服を水で十分に洗うか、または手袋を着用する。少なくとも10分間洗い流し続ける。医師の診断を受ける。何らかの不快感や症状があるときはそれ以上の暴露を避ける。衣類は、再着用の前に洗濯する。靴は再使用前に十分に洗浄する。
- 眼に入った場合** : すぐに多量の水で、時々上下のまぶたを持ち上げながら眼をすすぐ。コンタクトレンズの有無を確認し、着用している場合にははずす。少なくとも10分間洗い流し続ける。医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合** : 水で口を洗浄する。入歯をしている場合ははずす。空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。物質を飲み込んだ場合、被災者の意識があれば少量の水を飲ませる。嘔吐すると危険なことがあるので、もし被災者の気分が悪くなったらそれ以上水を飲ませてはならない。医師の指示がない限り、吐かせてはならない。もし嘔吐が起きた場合は嘔吐物が肺に入らないように頭を低い位置に保つ。健康上有害な影響が持続または重篤な場合には医師の診断を受ける。意識がない場合、決して口からものを与えてはならない。意識がない場合、昏睡位(うつ伏せで顔をやや横向き)にして直ちに医師の診断を受けさせる。気道を開いた状態に維持する。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。

最も重要な徴候及び症状

予想される急性健康影響

皮膚に付着した場合 : 皮膚刺激。アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。

眼に入った場合 : 強い眼刺激

過剰にばく露した場合の徴候症状

皮膚に付着した場合 : 有害症状には以下の症状が含まれる:
刺激
充血

眼に入った場合 : 有害症状には以下の症状が含まれる:
痛み及び刺激
流涙
充血

応急処置をする者の保護 : 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。汚染された衣服を取り除く前に汚染された衣服を水で十分に洗うか、または手袋を着用する。

医師に対する特別な注意事項 : 症状に対応した対処療法を行うこと。大量に摂取あるいは吸引した場合は、直ちに毒物治療の専門医に連絡する。

5. 火災時の措置

- 消火剤** : 火災に応じた消火剤を使用する。
- 使ってはならない消火剤** : 認知済みのものは無し。
- 特有の危険有害性** : 本製品は水生生物に対して有害であり、長期にわたり持続する影響を有する。本物質によって汚染された消火用水は封じ込める必要があり、水路、下水、または排水管に放出してはならない。
- 特有の消火方法** : 火災が発生したら、すみやかに火災現場から人員を退避させ現場を隔離する。人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。
- 消火を行う者の保護** : 消火を行う者は適切な保護器具と、陽圧モードで動作するフルフェイス部分を備えた自給式の呼吸器具を装着しなければならない。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

- 非緊急時対応要員について** : 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。周辺地域の人々を避難させる。関係者以外ならびに保護用具を着用していない作業員の入室を禁じる。漏出した物質に触れたり、その上を歩いたりしてはならない。十分な換気を行う。換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護用具を着用する。適切な個人保護装置を着用する。
- 緊急時対応要員について** : 流出分の取り扱いに専用衣類が必要な場合には、適切および不適切な物質に関するセクション8に記載の情報を注意しなければならない。「緊急時要員以外の人員用」の情報も参照。

- 環境に対する注意事項** : 漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。製品が環境汚染(排水、水路、土壌または大気)を起したときは、関係する行政当局に報告する。水質汚染物質である。大量に放出されると環境に対して有害である可能性がある。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 少量に流出した場合** : 漏出区域から容器を移動する。粉塵の発生を避けること。HEPAフィルター付き真空吸引機を使用すれば粉塵の飛散を減少させることができる。漏洩物は指定された、ラベルの貼られた廃棄物用容器に入れること。許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 安全取扱注意事項** : 適切な個人保護具を使用すること(セクション8を参照)。皮膚感作障害の病歴を持つ人を、本製剤が使用されるいかなる工程にも就業させてはならない。眼、皮膚および衣類に触れないようにする。摂取してはならない。環境への放出を避けること。使用しないときは元の容器又は適合素材で作られた認可済みの代替容器に入れ、密閉して保存する。容器が空でも製品の残留物が残存して有害危険性がある。容器を再利用してはならない。
- 衛生対策** : 本物質の取扱い、保管、作業を行う場所での飲食および喫煙は厳禁。作業者は飲食、喫煙の前に手を洗うこと。飲食区域に入る前に汚染した衣類と保護具を脱ぐこと。同様にセクション8の衛生措置に関する追加情報も参照。

保管

- 安全な保管条件** : 現地の法規制に従って保管する。元の容器に入れ、換気の良い乾燥した冷所で直射日光を避け、混合禁止物質(セクション10を参照)および飲食物から離して保管する。使用直前まで、容器は固く閉め封印して保管する。いったん開けた容器は入念に再密閉し、漏出を防ぐため直立させて保管する。ラベルのない容器に保管してはならない。環境汚染を避けるために適切な容器を使用する。非相溶性材料については取扱いまたは使用前にセクション10を参照のこと。

8. ばく露防止及び保護措置

- 設備対策** : 全体換気装置は作業者が暴露される空中浮遊物質濃度の管理に十分なものを使用する。

曝露限界

8. ばく露防止及び保護措置

化学名又は一般名	暴露限界値
二酸化チタン	日本産業衛生学会（日本、5/2018）。 OEL-M: 1 mg/m ³ 8 時間。形状：吸入性粉塵 OEL-M: 4 mg/m ³ 8 時間。形状：総粉塵 OEL-M: 0.3 mg/m ³ 、(Tiとして) 8 時間。形状： ナノ粒子
phenol	日本産業衛生学会（日本、5/2018）。皮膚から 吸収。 OEL-M: 5 ppm 8 時間。 OEL-M: 19 mg/m ³ 8 時間。

保護具

- 呼吸用保護具** : 危険性と暴露の可能性に基づき、適切な基準または認証を満たすマスクを選択すること。マスクは、呼吸保護プログラムに従って使用し、適切な付け心地、トレーニング、および使用上のその他の側面を確実にすること。
- 手の保護具** : リスク評価によって必要とされるときは、化学製品の取り扱いの際、承認された基準に合格した耐化学品性で不浸透性の手袋を常に着用する。手袋製造業者により特定されたパラメータを考慮して、手袋の使用中に手袋がまだ保護性を維持しているかを確認すること。あらゆる手袋の材料は製造業者が異なれば透過時間も異なる可能性があることに注意する必要がある。
- 眼の保護具** : リスク評価によって必要とされるときは、液体の飛まつ、ミスト、ガスあるいは塵埃への暴露をさけるため、承認された基準に合格した安全眼鏡を着用する。接触の可能性がある場合、評価によってより高次の保護が指摘されている場合を除いて次の保護具を着用しなければならない：耐化学物質飛沫よけゴーグル。
- 皮膚及び身体の保護具** : 作業員の身体保護衣は、行う作業の内容および関連するリスクに基づいて選択しなければならない。さらにこの製品を取り扱う前に専門家の承認を受けなければならない。
この製品を取り扱う前に、行う作業とそれに付随するリスクに基づき適切な履物および何らかの追加的な皮膚保護具を選択し、専門家の認可を受けなければならない。

9. 物理的及び化学的性質

外観

- 物理的状態** : 固体
- 色** : 緑色。-白。
- 臭い** : 無刺激。
- pH** : データなし
- 融点・凝固点** : データなし
- 沸点、初留点と沸騰範囲** : >35°C (>95°F)
- 引火点** : 密閉式: >100°C (>212°F)
- 燃焼又は爆発範囲の上限・下限** : データなし
- 蒸気圧** : <0 kPa (<0 mm Hg) [室温]
- 比重(相対密度)** : データなし
- 密度** : 2 g/cm³ [20°C (68°F)]
- 溶解度** : 以下の物質に不溶性: 冷水 および 温水。
- n-オクタノール/水分配係数** : データなし
- 自然発火温度** : 該当しない
- 分解温度** : データなし

10. 安定性及び反応性

- 反応性** : この製品またはその成分に関しては、反応性に関する利用可能な具体的試験データはない。
- 化学的安定性** : 製品は安定である。
- 危険有害反応可能性** : 通常の貯蔵および使用条件下では、有害な反応は起こらない。
- 避けるべき条件** : 特にデータは無い。

10. 安定性及び反応性

混触危険物質 : 特にデータは無い。

危険有害な分解生成物 : 通常の保管及び使用条件下では、危険な分解生成物は生成されない。

11. 有害性情報

急性毒性

製品 / 成分の名称	結果	種類	投与量	暴露時間
3,6-diazaoctanethylenediamin phenol	LD50 経皮	ウサギ	805 mg/kg	-
	LD50 経口	ラット	2500 mg/kg	-
	LC50 吸入した場合 蒸気	ラット	316 mg/m ³	4 時間
	LD50 経皮	ウサギ	630 mg/kg	-
	LD50 経皮	ラット	669 mg/kg	-
	LD50 経口	ラット	317 mg/kg	-

急性毒性の推定

製品 / 成分の名称	経口 (mg/kg)	経皮 (mg/kg)	吸入 (ガス) (ppm)	吸入 (蒸気) (mg/l)	吸入 (ダストおよびミスト) (mg/l)
3,6-diazaoctanethylenediamin	2500	1100	N/A	N/A	N/A
phenol	100	630	N/A	3	N/A

経路	急性毒性推定値 (ATE値)
データなし	

刺激性/腐食性

製品 / 成分の名称	結果	種類	スコア	暴露時間	観察
reaction product: bisphenol-A-(epichlorhydrin); epoxy resin (number average molecular weight ≤ 700)	眼 - 軽度の刺激	ウサギ	-	100 mg	-
	皮膚 - 中程度の刺激	ウサギ	-	24 時間 500 UI	-
二酸化チタン	皮膚 - 強度の刺激	ウサギ	-	24 時間 2 mg	-
	皮膚 - 軽度の刺激	ヒト	-	72 時間 300 ug l	-
3,6-diazaoctanethylenediamin	眼 - 中程度の刺激	ウサギ	-	24 時間 20 mg	-
phenol	眼 - 強度の刺激	ウサギ	-	49 mg	-
	皮膚 - 強度の刺激	ウサギ	-	24 時間 5 mg	-
	皮膚 - 強度の刺激	ウサギ	-	490 mg	-
	眼 - 軽度の刺激	ウサギ	-	0.5 分 5 mg	-
	眼 - 強度の刺激	ウサギ	-	5 mg	-
	皮膚 - 強度の刺激	ブタ	-	0.5 分 400 UI	-
	皮膚 - 軽度の刺激	ウサギ	-	100 mg	-
	皮膚 - 強度の刺激	ウサギ	-	535 mg	-

呼吸器感作/皮膚感作

データなし

生殖細胞変異原性 (変異原性)

データなし

発がん性

データなし

生殖毒性

データなし

11. 有害性情報

特定標的臓器毒性、単回ばく露

データなし

特定標的臓器毒性、反復ばく露

名称	カテゴリ	暴露経路	標的器官
phenol	区分2	-	-

吸引性呼吸器有害性

データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

製品 / 成分の名称	結果	種類	暴露時間
二酸化チタン	急性 LC50 3 mg/l 真水	甲殻類 - Ceriodaphnia dubia - 新生児	48 時間
	急性 LC50 6.5 mg/l 真水	ミジンコ類 - Daphnia pulex - 新生児	48 時間
	急性 LC50 >1000000 µg/l 海水	魚類 - Fundulus heteroclitus	96 時間
3,6-diazaoctanethylenediamin	急性 EC50 3700 µg/l 真水	藻類 - Pseudokirchneriella subcapitata	96 時間
	急性 LC50 33900 µg/l 真水	ミジンコ類 - Daphnia magna	48 時間
phenol	急性 EC50 61.1 µg/l 真水	藻類 - Pseudokirchneriella subcapitata	96 時間
	急性 EC50 36 mg/l 海水	藻類 - Hormosira banksii - 配偶子	72 時間
	急性 EC50 94 mg/l 真水	水生植物 - Lemna aequinoctialis	96 時間
	急性 EC50 4200 µg/l 真水	ミジンコ類 - Daphnia magna	48 時間
	急性 LC50 800 µg/l 海水	甲殻類 - Archaeomysis kokuboi - 幼若体(ひな鳥、孵化したての幼魚、離乳子畜)	48 時間
	急性 LC50 1.75 µg/l 真水	魚類 - Cyprinus carpio - 幼虫	96 時間
	慢性 NOEC 16 µg/l 海水	藻類 - Hormosira banksii - 配偶子	72 時間
	慢性 NOEC 1.5 mg/l 真水	ミジンコ類 - Daphnia magna	21 日
	慢性 NOEC 118 µg/l 真水	魚類 - Oncorhynchus mykiss	90 日

残留性・分解性

データなし

生体蓄積性

製品 / 成分の名称	LogP _{ow}	BCF	可能性
reaction product: bisphenol-A-(epichlorhydrin); epoxy resin (number average molecular weight ≤ 700)	2.64 から 3.78	31	低
3,6-diazaoctanethylenediamin phenol	-1.66 から -1.4 1.47	- 647	低 高

土壌中の移動性

: データなし

12. 環境影響情報

オゾン層への有害性	: 該当しない
他の有害影響	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法	: 廃棄物の発生は避けるか、あるいは可能な限り少なくする必要がある。この製品、製品の溶液およびあらゆる副生成物の処分は、常に環境保護および廃棄物処理に関する法律の定める要求事項、および現地法の定める要求事項に従わなければならない。余剰またはリサイクルできない製品は許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処理する。管轄当局の要件に完全に準拠しない限り、廃棄物を無処理で下水道に流してはならない。不要な包装材料は再利用しなければならない。焼却または埋め立ては、再利用が不可能な場合にのみ検討すべきである。この材料およびその容器は安全な方法で廃棄しなければならない。清掃または洗浄されていない空容器を取り扱う際には注意しなければならない。空の容器や中袋に製品が残留している可能性がある。漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。
------	--

14. 輸送上の注意

	UN	IMDG	IATA
国連番号	データなし	データなし	データなし
品名	データなし	データなし	データなし
国連分類 クラス	データなし	データなし	データなし
容器等級	-	-	-
環境有害性	該当せず。	該当せず。	該当せず。

使用者のための特別な予防措置 : 使用者の施設内での輸送: 直立型の安定した容器に入れて輸送する。本製品の輸送者が事故や漏出の際の対処法を理解していることを確認する。

IMO機器によるばら積み運搬 : データなし

15. 適用法令

消防法

カテゴリ	物質名/種類	危険性区分	注意喚起語	指定数量
第四類	以下を含む物質: 第三石油類	III	火気厳禁	2000 L

安衛法

名称等を表示すべき危険物及び有害物

化学名又は一般名	%	状況	政令番号
人造鉱物繊維	≥25 - ≤50	該当	314
酸化チタン(IV)	≤10	該当	191
フェノール	≤0.93	該当	474

名称等を通知すべき危険物及び有害物

化学名又は一般名	%	状況	政令番号
酸化チタン(IV)	≤10	該当	191
フェノール	≤0.93	該当	474

変異原性物質

化学名又は一般名	%	状況	政令番号
ビスフェノールA型エポキシ樹脂中間体	≤10	該当	110

15. 適用法令

化学物質審査規制法

化学名又は一般名	%	状況	政令番号
4, 4'-イソプロピリデンジフェノールと1-クロロ-2, 3-エポキシプロパンの重縮合物（液状のものに限る。）; ビスフェノールA型エポキシ樹脂フェノール	≤10	優先評価化学物質	87
	≤0.93	優先評価化学物質	62

毒物及び劇物取締法

化学名又は一般名	%	状況	政令番号
N・N'-ビス(ニ-アミノエチル)エタン-1, 2-ジアミン	<1.0	劇物	80.2

化学物質排出把握管理促進法

記載された成分なし。

日本産業衛生学会 発がん性物質 : 2B類

16. その他の情報

履歴

印刷日 : 30.06.2020
 発行日/改訂版の日付 : 05.06.2020
 前作成日 : 前もって確認されていない

バージョン : 1

略語の解説

ATE = 急性毒性推定値
 BCF = 生物濃縮係数
 GHS = 化学品の分類および表示に関する世界調和システム
 IATA = 国際航空輸送協会
 IBC = 中型運搬容器
 IMDG = 国際海上危険物
 LogPow = オクタノール/水の分配係数の対数
 MARPOL = 海洋汚染防止条約、1973年の船舶による汚染の防止のための国際条約に関する1978年の議定書。 ("Marpol" = 海洋汚染)
 N/A = データなし
 SGG = 隔離グループ
 UN = 国際連合

分類を行うために使用する手順

分類	由来
皮膚刺激性 - 区分2 眼刺激性 - 区分2A 皮膚感作性 - 区分1 水生環境有害性(長期間) - 区分3	算出方法 算出方法 算出方法 算出方法

参照 : データなし

前バージョンから変更された情報を指摘する。

注意事項

我々の知る限りにおいて、ここに記載した情報は正確です。しかしながら、上記の供給業者あるいはその子会社のいずれも、ここに記載した情報の正確さあるいは完全性に関していかなる責任も負うものではありません。製品の適合性については、ご使用各位の責任において決定してください。全ての物質は未知の危険有害性を含んでいる可能性があるため、取り扱いには細心の注意が必要です。ここには特定の危険有害性が記載されていますが、これらが存在する唯一の危険有害性であることが保証されているものではありません。